新年のご挨拶

髙林 和明
代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は弊社の事業活動に対し、格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。新春にあたり、コロナ禍の昨今思うことを記し、ご挨拶とさせていただきます。

さて私事ではありますが、昨年テレワークのために新しいインクジェットプリンターを購入しました。梱包を開けるとパソコンに接続するケーブルが同梱されてなく、家電量販店にケーブルを買いにいくと、店員に「最近のプリンターは無線で接続するのでケーブルは不要」と言われました。前回プリンターを買った5年前はケーブルで接続していたので、私は無意識のうちにケーブルで接続することが当たり前だと思い込んでいたのです。これぞアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）の一例で、私の常識はIT機器の進化から完全に取り残されていました。

また、このような意識のズレの対象は機器だけではありません。先日、ウェブサイト制作会社の人と打ち合わせをしましたが、彼らはほとんどノートを取りません。事前に示した質問事項を大型画面に映し出して、それに各人の発言を次から次へと打ち込み、会議が終わったときにはすぐにそれを議事録として出席者全員に送ります。その手際の良さは、ノートに手書きでメモをして、後からそれを見ながら議事録を作成するより明らかに生産性に勝ります。そして、これは今の私のスキルではできません。そもそもキーボードにインプットするスピードが遅くついていけないし、紙を見ないと頭が働きません。頭がITの進化についていけず、「リスキリング」（学び直し）の必要性を痛感しました。

アップグレードさせないといけないのはこのようなIT関連の技術的な知識やスキルだけではありません。社会が大きく変化する中で、我々は価値観そのものをアップグレードしていかなければならないと思います。

社会の変化として取り上げたいのは少子高齢化の問題です。「人生100年時代」といわれ、少子高齢化の進展で最大4世代もの人間がいっしょに暮らさなければならない時代が当たり前になりつつあります。最近、特にテレビなどで昭和の価値観を持ったままの老人の発言が取り沙汰されますが、多くの世代が共生する社会では「若者は年寄りの言うことを絶対に聞け」というような高圧的な態度はもはや通じません。私は昔旧制中学校の名残を持つ、学校全体が体育会のような高校を卒業したので、年齢による「権力格差」がまだ抜け切れていませんが、昔刷り込まれたこの上意下達の意識を捨て去ろうと努めています。逆に、若者から学ぶべきことは多いです。ITリテラシーもそうですが、先日（2021年11

月 29 日）の日本経済新聞のトップ面の記事「若者、強欲・不平等に NO」に書いてあったように、最近の若者は金儲け一辺倒ではなく、社会への貢献や会社に明確な存在意義を求めている人が多く、これは我々年長者も見習うべきことだと思います。このように、年齢による「権力格差」の大きい社会から、多世代が平等で共生できる社会に変えていく必要があると思います。

そして、コロナ禍になってから先がみえにくい世の中になってきています。アクターコロナの時代になっても、元の社会に戻るのではなく新しい価値観が必要な世の中になっていくでしょう。

しかし、それは予測がつきにくい社会で、そのことは VUCA（Volatile ＝不安定、Uncertain ＝不確実、Complex ＝複雑、Ambiguous ＝曖昧）の時代などといわれます。そのような時代では、過去に刷り込まれた経験と知識だけを頼りに判断することは好ましくありません。アンコンシャスバイアスと呼ばれるような偏見を持たずに柔軟な頭で事実をよく観察すること、周りの人間の言うことをよく聴いて「対話」すること、そして「思考停止」しないで判断することが必要であると思います。

それでは、具体的にどうしたらよいでしょうか。月並みですが、まずは一方的に自分の価値観を押しつけるのではなく、視点を変えて相手の立場に立って考えることだと思います。他人と意見が対立したときに一歩立ち止まり「なぜ、この人はこのような考え方をするのか」と考えてみること、そしてその人たちと「対話」して、相手の言い分を聴いてあげること、相手の言い分の中に良いところがあれば取り入れてみる柔軟性が必要です。私もタイでの 3 年半の海外赴任時では、日本人の常識が通用しないことの連続でしたが、それでもタイ人の行動や考え方を理解し、対話し、一緒に成果を出そうと努力したことが、自分のリーダーシップの引き出しを増やし、成長させてくれたと思っています。

こんなことを書くと、ここは日本で日本にいる限り外国人を日本のルールに従わせればいいんだと言う人がいるかもしれません。しかし、過去はそれでよかったかもしれませんが、そうではない社会が来る可能性が大きいことを想像してほしいと思います。つまり、労働人口不足の進展でこれから外国人がさらに急増し、「郷に入っては郷に従え」「日本に住むなら日本人の常識に従え」という言葉が通用しなくなる社会がもうそこまで来ているということです。

最近「ダイバーシティ＆インクルージョン」という言葉が流行していますが、いくら多様なバックグラウンドを持つ人材を集めても、主流派の人が少数派の人に自分たちの価値観を押しつけようとしては組織としてのより良い成果は発揮できません。本当の意味での「ダイバーシティ＆インクルージョン」はいろいろな価値観の人がおのおのその価値観を持ちつつ、相手を認め一緒に協力しながら活動してより成果を上げていくことで、これができてこそ一人ひとりが生き生きと活動できるということです。それは多国籍な集団でも日本人同士でも一緒です。

人間誰しも自分の過去の体験や知識にとらわれがちです。自分がこれまで身につけてきた価値観を見直すことはある意味で辛いこと難しいことでもありますが、アンコンシャスバイアスにならないように常に意識し、謙虚に、必要に応じて価値観をアップグレードさせることが肝要です。多様な価値観を持つ人たちが共生できる「ダイバーシティ＆インクルージョン」を標榜できる社会を目指しましょう。